

## ■ 現状と課題

- ・社会的マイノリティであることや言語、文化、習慣等の違いから様々な人権の問題が発生しています。これらのことを「知らない」「分からない」ということが、偏見で相手を捉えてしまい、関係を築くときに壁を作ってしまう。まずは、「知らない」「分からない」ことに目を向け、正しく理解することが大切です。
- ・一人ひとりが自分らしく地域で暮らしていくためには、お互いを思いやり、多様性を尊重することが求められます。
- ・その人らしさを認め合いながら共に生きる社会の実現に向け、障害の有無にかかわらず、双方の建設的な対話からお互いに理解し合い、共に対応案を検討していくことが重要です。(合理的配慮)

## ■ 地域での取り組み

- ・学校では授業の一環として、障害理解を深める取り組みを行っています。近隣の福祉施設に見学に行ったり、利用者の話を聞いたりするなど交流する機会を作り「共に生きる力」を育みます。
- ・当事者による講演会や交流する機会を増やすことで、多様性を尊重する視点と地域につながりが生まれるよう取り組みます。
- ・多様性の理解促進のため、イベントの開催やSNSを活用した情報提供をしていきます。

## ■ 練馬区社協の取り組み

- ・地域講座や学校で福祉を学ぶ機会を設ける際には、地域で暮らす障害当事者を講師として共に学び合い、障害理解を深められるよう活動を進めていきます。
- ・学校等での学習の機会だけでなく、イベントやアート作品、SNSなどを通して、住民と一緒に考え、幅広い世代に関心を持ってもらえるよう努めます。
- ・ねりま社会福祉法人等のネットでは、地域に向けた福祉教育に取り組みます。

目指す姿

多様性を認め合える地域



地域でこんな取り組みが広がっています

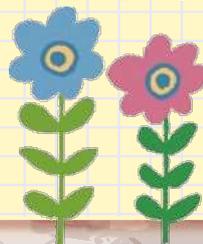
## 多様性を尊重するつながり

### ● 当事者自身がつくる地域のつながり ～社会福祉法人練馬山彦福祉会～ ●

山彦作業所では、学校での福祉教育の他に施設のイベントを通じて障害者への理解、活動の周知を行ってきました。小・中学校などの授業での福祉教育も、福祉の分野に関心をもってもらう第一歩としてはとても大切なことだと思います。

しかし、福祉作業所を長く運営している中で、障害者が地域で暮らし、地域との関係を築いていくのは、当事者自身だなと感じることがあります。日常の触れ合いが地域の人とのつながりをつくり、そのつながりを支えていくことが、多様性を育むうえで大切なのだと思います。

(理事長 坂元さん)



### ● 体験を通して心をつなぐ楽しい交流事業 ～練馬区介護人派遣センター～ ●

障害者のことを地域の人たちにもっと知ってもらいたい、仲間を増やしたいという思いで、車いすの障害者の方と一緒に学校に行き車いす体験を行っています。子どもたちは障害のある方と早いうちに出会うことで、「壁」をつくらず接しているように思います。子どもたちに車いす体験の授業をすることは、自分たちのことを知ってもらうことなので障害者の方も楽しみながら、やりがいを持って行っています。当事者との体験を通し子どもたちからは「みんなが暮らしやすい社会にするためにどうすればいいか考える機会を持つことができた」「おじちゃんは障害があって話ができないかと思っていたけれど、授業をうけて話かけてみたら話が通じた。コミュニケーションができたことに家族も驚いていた」という感想も寄せてもらいました。つながることで、誰でも暮らしやすい地域に近づいていくのだと思います。今後は障害の有無にかかわらず、更に多くの方を巻き込んでこの活動を広げていきたいです。



### ● 当事者が講師となって理解を深める ～白百合福祉作業所・かたくり福祉作業所～ ●

障害理解を深めるために小学生や高校生に当事者が講師となって日々の活動内容や将来の夢などを伝える機会をつくってきました。

また、近隣高校の生徒たちと一緒に、地域の清掃活動や農福連携をしている農園にて除草を行うなどの交流をしています。子どもたちからは、「清掃活動をした時に、手についた落ち葉をとってくれて優しいと思った」「しゃべることができない人でも指差しなどで伝えてくれて、充分コミュニケーションがとれることがわかった」など、当事者と交流を持つことで、多様性を受け入れる地域の力を育むことにつながっています。

